

地域と地球の環境を

守りはぐくむまちを目指して

—めぐろからの挑戦—



世界気象機関（WMO）は、2023（令和5）年は世界の平均気温が観測史上最も高かったことを発表し、注目を集めました。また、世界各地で異常高温、熱波や干ばつ、大規模な洪水、山火事などが発生し、その影響により農作物の不作が深刻化し、食料価格が高騰したことも記憶に新しいところです。

一方、日本においては、年平均気温及び日本近海の平均海面水温が、いずれも統計開始以来、最も高い数値を記録し、同年6月1日から7月31日までに発生した各地の大雨による被害は、人的な被害が93名、家屋の被害が2万5262件に上りました。

こうした地球温暖化による気候変動問題のほかにも、生物多様性の喪失やマイクロプラスチックによる海洋汚染などが顕在化しており、地球規模の環境問題にストップをかけていくことが求められています。

本区では、2023（令和5）年3月に改定した「目黒区環境基本計画」に、「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」を包含し、脱炭素化に向けた施策の体系を一本化するとともに、目指すべき環境像を「地域と地球の環境を守りはぐくむまち—めぐろからの挑戦—」と定め、ゼロカーボンシティの実現に向けた具体的なロードマップを示しております。

区といたしましては、環境問題への対応は、私たち一人ひとりが、今、地球で起きている現実を正しく理解し、地域や家庭、事業所等でできるところから地道に取り組むことが肝要であると考えています。

このため、区は計画のロードマップに基づき、区民や事業者等の皆様と、より一層連携・協力を図りながら、地域の1事業者として区有施設の脱炭素化にも鋭意取り組んでまいります。

本報告書は、2023（令和5）年3月に改定した、新たな「目黒区環境基本計画」に基づき、2023（令和5）年度に実施しました環境保全計画の内容や実施状況などを詳細に取りまとめたものです。

なお、今年度からは、地球環境に配慮したペーパーレス化の一環として、本報告書と概要版の発行部数を大幅に削減いたしました。環境問題への理解や関心を深め、行動するきっかけとしてご活用される際は、区ウェブサイトをご活用いただくと幸いです。

今後とも、区として着実に推進していく、地域における環境問題への取組につきまして、皆様のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

2024（令和6）年9月

目黒区長 青木 英二

2024(令和6)年度版めぐろの環境(環境報告書)

目次

はじめに	1
1 編集方針	1
2 目黒区環境基本計画	1
第1章 環境保全施策の取組	5
基本方針1 レジリエントなまち カーボンニュートラルの未来をつくる	6
基本方針2 資源が循環するまち ものを大切にして資源が循環する未来をつくる	13
基本方針3 みどりをを感じるまち 身近なみどりをはぐくみ、みどり豊かな未来をつくる	19
基本方針4 快適に暮らせるまち 健康で安心して快適に暮らせる生活環境の未来を守る	25
基本方針5 パートナーシップで取り組むまち みなが環境を知り、学び、行動する未来をつくる	31
ゼロカーボンシティ実現に向けた重点プロジェクト 区民、事業者、区の3つの取組	35
第2章 区役所の温室効果ガス削減の取組	37
1 目黒区地球温暖化対策推進第三次実行計画(めぐろエコ・プランⅢ)	37
2 2023(令和5)年度の取組結果	38
3 2023(令和5)年度の取組結果に対する評価	40
資料編	41
アンケート調査結果	42
環境行政をめぐる動き	73
環境保全の施策に要した主な経費	75
用語集	76

本文中に* (初出のみ) が付いている語句は、
用語集で語句の解説を記載しています。

はじめに

01 編集方針

区の環境保全の基本的考え方を明らかにし、環境施策を総合的かつ計画的に進めることを目的として、2000（平成12）年12月に「目黒区環境基本条例」を制定しました。この条例に基づき、区は「目黒区環境基本計画」を策定し、環境の保全に関する様々な施策を進めています。

「めぐろの環境（環境報告書）」は、「目黒区環境基本条例」第9条の規定に基づき、環境の状況や環境の保全に関する施策の実施状況及び評価等を明らかにするため、毎年作成するものです。

2024（令和6）年度版の「めぐろの環境（環境報告書）」は、2023（令和5）年3月に改定した「目黒区環境基本計画」の体系に基づき、2023（令和5）年度に実施した環境保全施策のほか、2024（令和6）年度に実施する環境保全施策を掲載しています。また、区内の大規模事業所のひとつとして率先垂範し取り組んでいるPDCA体制を通じた区役所の事務事業からの温室効果ガス*排出削減の取組実績も掲載しています。

02 目黒区環境基本計画

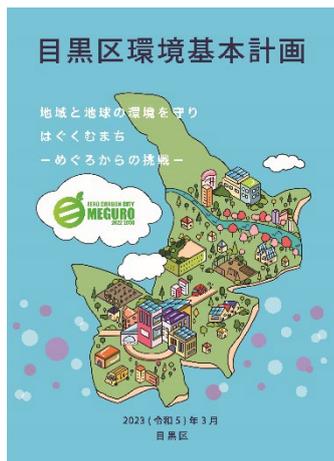
環境に関する長期目標、その実現に向けた施策の方向、行動の指針、計画推進の仕組みなどを明らかにすることを目的に、区は「目黒区環境基本計画」を策定し、概ね5年ごとに改定しています。

2023（令和5）年3月に改定した「目黒区環境基本計画」は、2022（令和4）年2月1日に表明したゼロカーボンシティの実現を目指し、「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」を「目黒区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」として包含し、また新たに「目黒区気候変動適応計画」を含めた計画としました。

「地域と地球の環境を守りはぐくむまち—めぐろからの挑戦—」を目指すべき環境像として掲げ、区を取り巻く社会情勢の変化やこれまでの取組の成果と課題を踏まえ、「計画の対象範囲」として5つの環境分野を設定し、各分野に対応した基本方針に沿って取組を進めています。

また、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、特に重点的に取り組む施策として、区民、事業者、区の3つの取組主体に分けてプロジェクトを設定しました。

● 目黒区環境基本計画 ●



● 目指すべき環境像 ●



目指すべき環境像	基本方針	関連する SDGs
地域と地球の環境を守りはぐくむまち — めぐるからの挑戦 —	<p>基本方針 1 レジリエント*なまち カーボンニュートラルの未来をつくる [目黒区地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)] [目黒区気候変動適応計画]</p>	
	<p>基本方針 2 資源が循環するまち ものを大切にして資源が循環する未来をつくる</p>	
	<p>基本方針 3 みどりをを感じるまち 身近なみどりをはぐくみ、みどり豊かな未来をつくる</p>	
	<p>基本方針 4 快適に暮らせるまち 健康で安心して快適に暮らせる生活環境の未来を守る</p>	
	<p>基本方針 5 パートナーシップで取り組むまち みなが環境を知り、学び、行動する未来をつくる</p>	

施策の目標	施策
1-1 ライフスタイルの省エネルギー化・ 脱炭素化の促進	①家庭・事業者の省エネルギー・脱炭素の取組促進 ②区有施設の省エネルギー化・脱炭素化の推進
1-2 積極的な再生可能エネルギー*の活用	③再生可能エネルギーの活用の促進 ④パートナーシップによるゼロカーボン対策
1-3 脱炭素型まちづくりの推進	⑤建物の省エネルギー化・脱炭素化の促進 ⑥移動の脱炭素化の促進 ⑦地域の脱炭素化の促進
1-4 気候変動適応策の推進	⑧都市型水害対策の推進 ⑨ヒートアイランド*・健康影響対策の推進 ⑩災害に強いまちづくり（気候変動×防災）の推進
2-1 3R*の取組の推進	⑪ごみの発生抑制、循環経済に向けた普及、啓発 ⑫資源の再使用・再生利用の促進 ⑬食品ロス、プラスチック削減の推進
2-2 ごみの適正処理の徹底	⑭分別排出の徹底 ⑮安全・適正なごみの収集と処理の徹底
3-1 自然環境の保全・みどりの創出と 質の向上	⑯拠点となるみどりの保全と創出 ⑰身近なみどりの保全と創出 ⑱河川環境の改善促進と水辺環境の保全
3-2 都市の生物多様性の確保	⑲いきものの生息・生育環境の保全 ⑳生物多様性の理解促進
4-1 安全・安心な生活環境の確保	㉑公害防止対策の推進 ㉒身近な環境問題への対応
4-2 清潔で美しいまちの維持	㉓まちの美化の徹底 ㉔パートナーシップによる美化活動の推進
5-1 継続的な環境教育と学習機会の充実	㉕継続的な環境教育の推進 ㉖環境学習機会の創出
5-2 環境活動の支援	㉗環境情報発信の充実 ㉘環境に配慮した活動への支援

2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて

2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた未来戦略として、2030（令和12）年までを重要な取組加速期間として位置付け、対策の強化を図るとともに、2030（令和12）年、2050年に向けた具体的なロードマップを描きました。

また、中期目標として、以下の3つの目標を掲げています。

●ゼロカーボンシティ実現に向けた3つの目標●

2030年度二酸化炭素排出量削減目標

2030（令和12）年度までに
2013（平成25）年度比で50%削減

2013年度の排出量：1,179,000 t-CO₂

2030年度の排出量：589,500 t-CO₂

2032年度再生可能エネルギー導入目標

2032（令和14）年度までに
導入容量（累計）約30,000 kW

※FIT認定容量に基づく目標値。2021（令和3）年度までの累計と比べて3.5倍に相当。

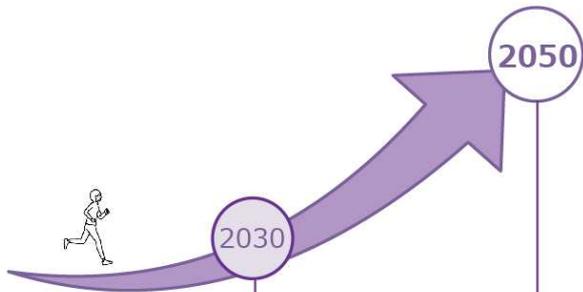
2032年度区の事務事業における温室効果ガス排出量削減目標

2032（令和14）年度までに
2013（平成25）年度比で60%削減

2013年度の排出量：23,627 t-CO₂-eq

2032年度の排出量：9,451 t-CO₂-eq

●ゼロカーボンシティ実現に向けたロードマップ●



取組	～2030（令和12）年度 ゼロカーボンシティの実現に向けて特に加速させる取組	～2050年度
家庭の省エネルギー・脱炭素の取組促進	約6,000t-CO ₂ 削減 ・省エネルギー型ライフスタイルの普及啓発 ・省エネルギー型設備機器等の普及啓発・導入支援	・脱炭素型ライフスタイルの定着
事業者の省エネルギー・脱炭素の取組促進	約3,000t-CO ₂ 削減 ・省エネルギー型ワークスタイルの普及啓発 ・省エネルギー型設備機器等の普及啓発・導入支援 ・環境配慮に取り組む事業者への支援	・脱炭素型ビジネススタイルの定着
積極的な再生可能エネルギーの活用	約15,000t-CO ₂ 削減 ・太陽光発電、蓄電システムなどの再生可能エネルギー設備の普及啓発・導入支援 ・再生可能エネルギー電力の普及啓発	・再生可能エネルギーの利用の定着 ・カーボンオフセットの活用推進
建物の省エネルギー化・脱炭素化の促進	約14,000t-CO ₂ 削減 ・新築建築物のZEH・ZEBの普及促進 ・既存建築物の省エネルギー化の支援・普及啓発 ・街区単位でのZEH・ZEBの普及促進	・ZEH・ZEBの定着
移動の脱炭素化の推進	約5,000t-CO ₂ 削減 ・ZEV（ゼロ・エミッション・ビークル）、V2H（ビークル・トゥ・ホーム）の普及啓発 ・区有施設へのEV（電気自動車）充電設備等の設置推進・区内への設置促進に向けた普及啓発	・ゼロカーボン・ドライブの定着
ごみの削減	約8,000t-CO ₂ 削減 ・マイバッグ利用・簡易包装の推進 ・焼却プラスチックごみ削減に向けた普及啓発	・3R（リデュース・リユース・リサイクル）の定着